

+ / - [the infinite between 0 and 1]

Ryoji Ikeda

◎開催趣旨

日本の電子音楽分野の第一人者として、世界中から注目されている作曲家/アーティスト、池田亮司。絶えず人間の感覚能力とテクノロジーの臨界点に挑むような、洗練された彼の作品やパフォーマンスの数々は、今や音楽だけでなく建築、映像、ダンスといった表現ジャンルを超えて、幅広く大きな影響を与えています。

私たちの知覚する世界を、サイン波やピクセルといった最小単位にまで突き詰められた「データ」として捉え直し、それらを再構成することで、全く別の世界体験を作り出すこと。それ自体は不可視である「データ」を、音と光の関係性によって記述することに、池田はフィルムやビデオといった映像・音響作品を通して取り組んでいます。

本展では池田亮司の本格的個展として、大規模かつ精緻に構成された映像インスタレーションを中心に、新たな知覚領域を探求する彼の作品を展示いたします。

◎開催概要

池田の活動を大きく「光=視覚」と「音=聴覚」のふたつに分け、インスタレーション作品を主に展示します。大規模な映像作品を中心としたブラックキューブの展示空間と、新作のサウンドインスタレーションが登場するホワイトキューブの展示空間を対比的に展開させる予定です。

知性と感性の狭間、新たな鑑賞体験へ

0と1の組み合わせによって制御されるコンピュータのプログラムを介して、数学的な無秩序と秩序が隣り合わせになっている世界の姿が提示されます。しかし、どれも難解な数式の知識や理解を必要とするものではなく、すべての作品が音と光という素材によって、身体的な体験として感じ取られる空間的な展示になります。

タイトル: 池田亮司 +/- [the infinite between 0 and 1] (イケダリョウジ プラス スラッシュ マイナス ジンフィニット ビトウィーン 0 アンド 1)

会期: 2009年4月2日(木)→6月21日(日) 休館日: 月曜日(ただし5月4日は開館)

時間: 10時→18時(入場は閉館の30分前まで)

会場: 東京都現代美術館 企画展示室1F、B2F 〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1

主催: 財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館

協力: Forma、ミックスウェーブ株式会社、株式会社アルファー精工、株式会社堀内カラー、

株式会社フレームマン、日本ビューレット・パッカード株式会社

観覧料金: 一般1000円(800円)/学生800円(640円)/中高校・65歳以上500円(400円)/小学生以下無料

*()内は20名様以上の団体料金

お問い合わせ: 03-5245-4111(代表) 03-5777-8600(ハローダイヤル)

公式HP: www.ryojiikeda.mot-art-museum.jp (3月上旬に開設予定)

交通案内: 東京メトロ半蔵門線清澄白河駅B2出口より徒歩9分、都営地下鉄大江戸線清澄白河駅A3出口より徒歩13分

広報お問い合わせ先: 写真素材のご用命は、FAX、メールもしくはお電話にて承ります。

事業企画課企画係広報班: 内藤 k-naito@mot-art.jp 野口 r-noguchi@mot-art.jp

TEL: 03-5245-1134(直通)/FAX: 03-5245-1141

+ / - [the infinite between 0 and 1]

Ryoji Ikeda

©出品作品

Datamatics (データマティクス) インスタレーション・シリーズ

[1F展示室]

the transcendental (e) [n°1-a] (ザトランセンデンタル)

data.matrix [n°1-10] (データ・マトリックス)

data.tron [3 SXGA+ version] (データ・トロン)

data.film [n°1-a] (データ・フィルム)

一直線上にいくつの点があるか?

数の数とは何か?

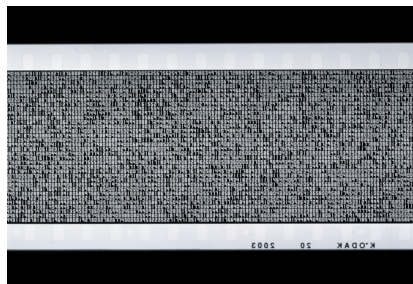
いかにしてランダムなものを真にランダムであると検証できるか?

このような問いを身体的・数学的に探求し、かつ、われわれの世界に広がる不可視で多様な実体性をもつ「データ」を知覚するポテンシャルについて探究するアート・プロジェクトdatamatics(データマティクス)から、3つの大型インスタレーション作品が展示されます。鑑賞者は、0と1の間に広がる無限の中で、膨大なデータの宇宙を体験することになるでしょう。

大型オーディオ・ビジュアル・インスタレーション作品 data.tron(データ・トロン)は、そのすべてのピクセルが数学的原理によって厳密に計算され、純粋数学や我々の世界に存在する膨大なデータの組み合わせによって構成された映像を超高速度で映し出します。巨大な画面と対峙することによって、鑑賞者の知覚は最大限にまで高められ、自身の存在や身体全体が作品の中に没入することになります。



data.tron [8K enhanced version]
© ryoji ikeda 2008
Commissioned by Ars Electronica Centre, Linz AT
Photo: Liz Hingley [参考図版]



data.film
© ryoji ikeda 2008
写真: 丸尾隆一 写真提供: 山口情報芸術センター[YCAM]
[参考図版]

+ / — [the infinite between 0 and 1]
Ryoji Ikeda

◎出品作品

the irreducible (ジイリデュシブル) | **matrix** (マトリックス)

[B2F展示室]

the transcendental (π) [n^2 -a] (ザトランセンデンタル)

the transcendental (e) [n^1 -b]

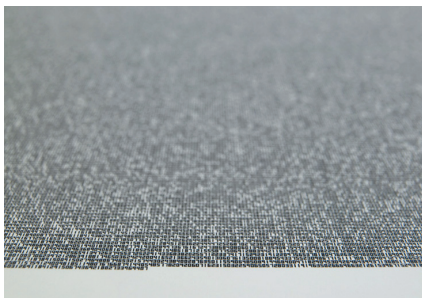
the transcendental (π) [n^2 -b]

the irreducible [n^1 -10] (ジイリデュシブル)

matrix [5ch version] (マトリックス)

the irreducible(ジイリデュシブル)は、2008年パリのLe Laboratoire(ルラボラトワール)で行われた、数学者とのプロジェクト「 $V \neq L$ (ヴィイズ ノット イコール トゥ エル)」の一環のもので、ここでは純粋数学において論じ続けられている「infinity(無限)」をテーマとしています。10枚のデジタルフォトプリントにはそれ以上還元できない1452384桁数で構成された数字がプリントされています。真にランダムであることが数学的に決して知り得ない膨大な数字が広がる漆黒の宇宙を、10個の窓から垣間見ることを通して、人間の知性の限界と閾値そのものと対峙する作品です。

matrix(マトリックス)は、建築空間・劇場・コンテナ・無響室などでサウンド・インスタレーションとして形式を変えながら継続して展開されている作品です。本展では、大規模な野外コンサートやスタジアムの遠方投射に使用される超指向性のパラボラ型スピーカー5台から放射される最も純粋な音(正弦波)が、それぞれ完全に拮抗するような音場が設計されます。鑑賞者は、その不可視の音のグリッドの中で、自らの身体がそのグリッド自体と干渉することによって生じる、極めてパーソナルな知覚体験を得ることになります。



a prime number
© ryoji ikeda 2008
Photo: Marc Dornage
[参考図版]



spectra [for Terminal 5, JFK]
© ryoji ikeda 2004
Photo: Dean Kaufman (courtesy of Forma Arts and Media)
[参考図版]

+ / — [the infinite between 0 and 1]

Ryoji Ikeda

「池田はわれわれがまさに数学者として死に物狂いで解明しようとしていることを、アーティストとして探究している」
— ベネディクト・グロス(数学者/ハーバード大学教授)、2008年

◎アーティスト・
プロフィール

池田亮司 Ryoji Ikeda | 1966年生まれ

電子音楽作曲家/アーティストとして超音波、周波数、そして音そのものの持つ本質的な特性の細部に徹底した焦点を当てた作品を発表してきた。

池田の作品は、音の物理的特性や人間の知覚との因果関係、音楽としての数学的類推、時間、空間を活用する。池田は、コンピュータとデジタルテクノロジーを極限まで駆使し、サウンドエンジニアリングおよび作曲において、独特の微視的な手法を発展させてきた。

1990年より音楽活動を開始。1995年以来池田は、コンサートやインスタレーション、レコーディングを通してサウンドアートの領域で積極的に活動している。アルバム「+/-」(1996年)、「0°C」(1998年)や「Matrix」(2000年)は、批評家から最も過激で革新的な現代電子音楽として称賛されている。カールステン・ニコライとのコラボレーション・プロジェクトである「Cyclo.」では音の視覚化をリアルタイムで行うオーディオ・ヴィジュアル・モジュールと共に、ソフトウェアとコンピュータでプログラムされた音楽の中で、エラー構造と繰り返されるループを考察している。振り付け家のウィリアム・フォーサイス(フランクフルトバレエ団)、金森穰、現代美術家の杉本博司、建築家の伊藤豊雄、そしてアーティスト集団ダムタイプとのコラボレーションなど多方面にわたる活動をおこなっている。

2001年アルス・エレクトロニカ(リンツ/オーストリア)において「デジタルミュージック」部門で「Golden Nica」賞を受賞している。

◎展覧会カタログ

「池田亮司 +/- [the infinite between 0 and 1]」

池田亮司インタビュー 聞き手: 浅田彰(批評家/京都造形芸術大学大学院長)

対談: ベネディクト・グロス(数学者/ハーバード大学教授)、デイヴィッド・エドワーズ(科学者/ルラボラトワール創設者)

解題: 長谷川祐子(東京都現代美術館チーフキュレーター)

株式会社エスクァイア マガジン ジャパン

2009年4月上旬刊行予定 価格未定/日英テキスト

◎展覧会企画

チーフキュレーター: 長谷川祐子 キュレーター: 村田康祐

◎展覧会担当学芸員

村田康祐、森山朋絵

◎同時開催

MOTコレクション 2009年3月21日(土)→6月28日(日)

トーキョーワンダーウォール公募 2009 作品展 2009年6月6日(土)→6月28日(日)



[the infinite between 0 and 1]

Ryoji Ikeda

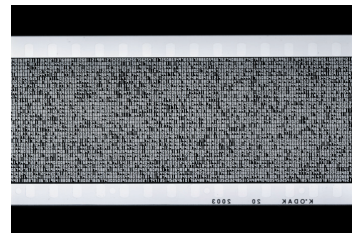
◎広報用素材



1



2



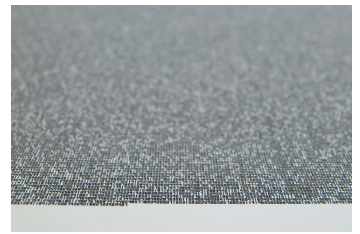
3



4



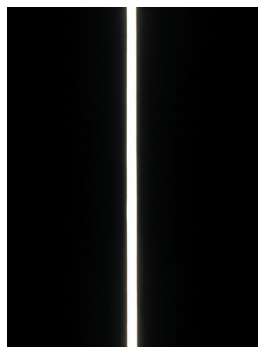
5



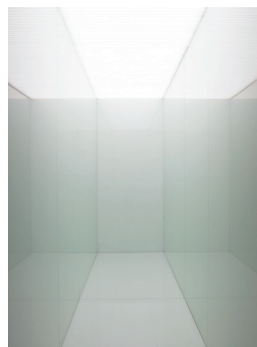
6



7



8



9



10

1: data.tron [8K enhanced version]
© ryoji ikeda 2008
Commissioned by Ars Electronica Centre, Linz AT
Photo: Liz Hingley [参考図版]

2: data.tron [8K enhanced version]
© ryoji ikeda 2008
Commissioned by Ars Electronica Centre, Linz AT
Photo: Liz Hingley [参考図版]

3: data.film
© ryoji ikeda 2008
写真: 丸尾隆一
写真提供: 山口情報芸術センター [YCAM]
[参考図版]

4: data.tron [8K enhanced version]
© ryoji ikeda 2008
Commissioned by Ars Electronica Centre, Linz AT
Photo: Liz Hingley [参考図版]

5: data.tron [8K enhanced version]
© ryoji ikeda 2008
Commissioned by Ars Electronica Centre, Linz AT
Photo: Liz Hingley [参考図版]

6: a prime number
Epson digital photo print, wood, steel
W1118×D5100×H450mm
© ryoji ikeda 2008
Part of the exhibition V#L
Commissioned and produced by Le Laboratoire
Photo: Marc Damage [参考図版]

7: a prime number
Epson digital photo print, wood, steel
W1118×D5100×H450mm

line
fluorescent lamps, wood
W10×H3805mm
© ryoji ikeda 2008
Part of the exhibition V#L
Commissioned and produced by Le Laboratoire
Photo: Marc Damage [参考図版]

8: line
fluorescent lamps, wood
W10×H3805mm
© ryoji ikeda 2008
Part of the exhibition V#L
Commissioned and produced by Le Laboratoire
Photo: Marc Damage [参考図版]

9: spectra III
fluorescent lamps, glass panels
W1200×D5000×H3000mm
© ryoji ikeda 2008
Part of the exhibition V#L
Commissioned and produced by Le Laboratoire
Photo: Marc Damage [参考図版]

10: spectra [for Terminal 5, JFK]
© ryoji ikeda 2004
Photo: Dean Kaufman (courtesy of Forma Arts and Media)
[参考図版]



[the infinite between 0 and 1]

Ryoji Ikeda

画像請求/プレゼント用招待券申込書

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 行

Fax: 03-5245-1141

展覧会広報用として作品画像10点をご用意しております。ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、ファクス又はEメールにてお申し込みください。なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

1. キャプションは作品の下に作家名、作品名、(制作年)、撮影者等を必ず表記ください。
2. 作品写真のトリミング、文字のせをすることはできません。

本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認の為のゲラ刷り、掲載誌(紙)、DVD、ビデオ、URL等をお送りください。また、読者・読者プレゼント用にご招待券(10組20名様分)をご用意しております。併せてお申し込みください。

雑誌名・番組名・
サイト名

種別○をつけてください

TV ラジオ 雑誌 新聞 フリーペーパー ネット媒体 携帯サイト その他

発売・放送予定日

御社名

ご担当者名

Eメールアドレス

住所

〒

電話番号

Fax

図版番号

ご希望の図版番号に✓をつけてください。

1: data.tron [8K enhanced version]
© ryoji ikeda 2008
Commissioned by Ars Electronica Centre, Linz AT
Photo: Liz Hingley [参考図版]

2: data.tron [8K enhanced version]
© ryoji ikeda 2008
Commissioned by Ars Electronica Centre, Linz AT
Photo: Liz Hingley [参考図版]

3: data.film
© ryoji ikeda 2008
写真: 丸尾隆一 写真提供: 山口情報芸術センター[YCAM]
[参考図版]

4: data.tron [8K enhanced version]
© ryoji ikeda 2008
Commissioned by Ars Electronica Centre, Linz AT
Photo: Liz Hingley [参考図版]

5: data.tron [8K enhanced version]
© ryoji ikeda 2008
Commissioned by Ars Electronica Centre, Linz AT
Photo: Liz Hingley [参考図版]

6: a prime number
Epson digital photo print, wood, steel
W1118×D5100×H450mm
© ryoji ikeda 2008
Part of the exhibition V≠L
Commissioned and produced by Le Laboratoire
Photo: Marc Damage [参考図版]

7: a prime number
Epson digital photo print, wood, steel
W1118×D5100×H450mm
line
fluorescent lamps, wood
W10×H3805mm
© ryoji ikeda 2008
Part of the exhibition V≠L
Commissioned and produced by Le Laboratoire
Photo: Marc Damage [参考図版]

8: line
fluorescent lamps, wood
W10×H3805mm
© ryoji ikeda 2008
Part of the exhibition V≠L
Commissioned and produced by Le Laboratoire
Photo: Marc Damage [参考図版]

9: spectra III
fluorescent lamps, glass panels
W1200×D5000×H3000mm
© ryoji ikeda 2008
Part of the exhibition V≠L
Commissioned and produced by Le Laboratoire
Photo: Marc Damage [参考図版]

10: spectra [for Terminal 5, JFK]
© ryoji ikeda 2004
Photo: Dean Kaufman (courtesy of Forma Arts and Media) [参考図版]

プレゼント用
招待券のご希望

プレゼント用招待券をご希望の方は□に✓をつけてください。

プレゼント用招待券を希望する(10組20名様)